



住みごこち一番・可児 ──若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造





思いやりの

花いつぱい運動(今渡北小の皆さん)

ぬくもりのよろこび

ご協力をお願いいたします。 当センター会長 齋藤美智子

すべての人々の基本的人権が尊重され、相互に尊重しうる平和で心豊か な社会を実現するために、私たち一人ひとりが人権尊重の意識を高め、自 分の人権を大切にするとともに、他人の人権を尊重する必要があります。

当センターでは、市民一人ひとりの人権意識の高揚に向け、他団体と連 携し各種講演会や街頭啓発などを基軸に、多種多用な事業を継続的に行い、 思いやりとぬくもりの心で、人を大切にする取り組みを進めてまいりまし た。

一方で、社会や国際情勢の変化、人々の意識の変化等も反映し、新たな 問題も顕在化するなど、人権問題はますます多様化、複雑化し、依然とし て多くの課題が存在しています。

これらの状況を踏まえ、これからも「はぐくもう 思いやりの心」をス ローガンに個々の価値観や生き方を認め合い、誰もが等しく、互いに尊重 し合える地域社会を目指した人権教育、人権啓発を積極的に実施してまい りますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上ます。

●目次●

●ぬくもりのよろこび……………………… 1

●特集「人権文化の光彩」

(標語・300字小説の入賞作品) …… 2~3

平成30年度標語(第18回)·300字小説(第11回)

応募者総数:3,460人

(小学生1,916人·中高一般1,544人)

(標語:2,967点·300字小説:493点)

入賞作品:37点

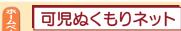
(標語30点·300字小説7点)

●主な後期活動実績…………

こころの健康を!、ふるさとの心、 ぬくもりまゆちゃん②、啓発のひかり



可児市人権啓発センター(可児市総合会館分室内) 〒509-0203 可児市下恵士5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990



平成三十年度

特集

しってるかい

考えて

いじめをされる

美遥(小学校五年生)

(審査員・他団体の代表と関係者) [標語]の部

2、967作品より選考

気づこうよ

だけ、留維(中学校二年生)やつていいことと、悪いこと

大事な人にも 言えますか?

ごめんなさい

佐橋 瑠按(小学校二年生)

その言葉

高橋

萌

(中学校三年生)

君の未来

変えられるのは 君自身

最優秀賞

河合 麻奈美(中学校三年生)人じゃない

だめだよ」と

暴力は 言葉の中にも 颯真(小学校六年生)も あるんだよ

そのゆう気 ありがとう 小林 柚暉(小大) 山本 華煉(x 相暉(小学校三年生) あい言葉

華煉(小学校六年生)

みんなとの

ゆうじょうぜんぶ たからもの

もうがまんの限界だ。

見つけてみよう

工藤 愛佳(中学校三年生) 苦手なあの子の 良い所

ごめんねと

ありがとうは まほうだよ

細谷 和花(小学校六年生) 言える勇気を 大切に

思ふざけ そう思うのは ありがとう その一言で 恵都(小学校六年生)

育もう 個性を認める 英匡(中学校三年生)心持ち -ム)(中学校一自分だけ 一年生

しさは すればするほど 返される

僕の目の前で予想だに

れなくなった。すると、

外国人に 岩田

恭長(小学校六年生)差別なし

声でこう言った。「みん

前の席の男の子が、 しないことが起こった。

から、僕に向かって、「友 なもうやめろよ。」それ

友達の 歩ずつ 優しさにじむ 理湖(小学校五年生)

勇気を出して 勇気を出して 谷口 瑞紀(小学校六年生) 私の階段 何段目 上がってく 哲平(小学校五年生)て 声かけよう

> と気づけなくてごめん 達なのに、困ってたこ

違うよと

言える者こそ

美月(小学校六年生)真の友

きをつけて [入選]

ネツ

堀尾 亮太(小学校六年生)トにひそむ 悪い人

キラキラの 富田 妃葵(小学校三年生)

大切な 仲間へよびかけ 翔真(小学校六年生)

> 存在だと思った。 てくれた彼を、

いた僕の心を埋め戻し

大切な

友達か。僕は、

穴の空

嬉しかった。そうか。 な。」と謝ってくれた。

「ごめんね」と

山本 レナ(中学校三年生)

心いやり

かなといっしょに 広げよう

| 松本 | 仁之介(中学校| 年生)

いじめダメ

若尾 奏良(小学校四年生)みてみぬふりも いじめだよ

第11回 権啓発入賞 300字小説

(最優秀賞)

年言を

肥田 萌希(中学校一年生)

493作品より選考 の部

僕は、いつも陰口を言 われている。その度に ラスで浮いてる存在の 友達がいなくて、 ク





主な後期活動実績

11月4日

街頭啓発

人権思想の普及 高揚を 呼びかけました



姫治ふれあいまつり

11月9日 · 11月15日 子どもぬく もり教室

『やっちゃだめ!自分が されて いやなこと』を テーマに開催しました。 第15回(東明小学校) 児童85名

6回(今渡北小学校)



11月15日

市民人権意識調査報告書

市民 1,000 人を対象に 第9回意識調査の 報告書を作成しました。



11月22日~12月11日

人権標語·300字小説入賞作品展

応募総数 3,460 点より 選ばれた、入賞作品 37 点を展示しました。



可児市立図書館本館

12月4日~12月10日

人権週間啓発活動

人権啓発旗や懸垂幕を掲 示し、人権意識の高揚に 努めました。



【優秀賞

芦田 優奈(中学校三年生)

かった。「自分を変 かけることが出来な 見ても、怖くて話し 今までそういうのを 重そうだった。私は で歩いていたおばあ さんの荷物はすごく 学校の帰り道。 前





た。おばあさんは笑 心がポカポカしてき 言った時、 大丈夫ですか。」 なんだか

気を出してよかっ 葉は魔法だ。こんな と言ってくれた。言 までになかった。勇 にうれしいことは今 「ありがとう。」

変えることが出来 出せたから、 じてこれからも生活 は変われる、そう信 た。たった一言で人 あのとき、 自分を 勇気を

涙は、

なぜか輝いて

くだけだった。けど、 た。ぼくは、ただ泣 しか聞こえなかっ

かったと思えた。 見えて、やって良



【優秀賞】

中丸 温翔(小学校六年生

聞をもらうと、 んがいた。毎日、 いてくれるおばあさ ぼくの新聞を待って た。近所にはいつも て新聞配達を始め 「ありがとう。」 ぼくは父の姿を見 新









よ。君が来るのが楽

しみって…。」

その後は、かすか

といって新聞をも

[入選]

がたくさんいる。 からまさとが歩いて来た。まわりには人 ある日ろうかを歩いていると、

かった。 つかいされているまさとが気にいらな はやとは目がみえないだけでとくべつあ 「またあいつとくべつあつかいか。

も言えなかった。 をしていた。それをみたはやとはなんと さとは一人で歩けるようにトレーニング いった。すると、むこうでまさとがトレー ニングをしている姿がみえた。なんとま 数日後、はやとはけがをして病院に

者への考えも大きく変わっていった。 ささえ、友達と認めた。またしょうがい たい目でみるのではなくトレーニングを(その時いらい、はやとはまさとをつめ)

[入選]

そこへぼくの所にお

れ、ぼくも参加した。 たくさんの人が訪 くなった。葬式には、 た。おばあさんは亡 なある日のことだっ らってくれた。そん

けたい はみんななりたい夢や、目標が決まって 何がしたいのか、よく分からない。友達 いる。私はあせっていた。早く夢を見つ 私には夢がない。何になりたいのか 遥香(中学校一年生)

あせらなくてもいいんだ。私は、 りと笑った。私は、気がぬけてしまった。 お母さんは、 を、おなかいっぱい食べること。」 を開いた。 く知りたかった。お母さんはゆっくり口 も、答えられないとは思うけど、とにか お母さんにぶちまけた。いっきに聞いて もてる?」きいてみたかったことを全部 夢?なぜその夢をもてたの?どうしたら 「お母さんの夢はねぇ、おいしいチョコ 「お母さんは夢をもっていた?どんな いたずらつ子の顔で、にや ぷつと

入選

敦之(小学校六年生 むこう 時間は苦手だ。今日もかけつこの時とか

私は運動神経が悪い。だから、体育の マドウムニコル(小学校六年生)

「うっわおそつ…本当に本気で走ってん 番おそくておまけに転んだりもした。

私は前を向き歩き出した。 うだ。悪い所だけが私のすべてじゃない。 分の事いっぱいほめまくってあげよ」そ 自分の悪い所じゃなく自分の良い所を からはなみだがでてくる。その時思い出 知ってる。全部私が悪いんだ。転んだの みんなの方からそんな声が聞こえてくる。 いーっぱい見つけていこうよ!そして自 たのすべてじゃないでしょ?これからは した。昔私の友達が言ってくれた言葉。 も自分のせい。そう思っていても私の目 確かに運動神経は悪いけどそれがあな

[入選]

せ勉強したって僕はバカなんだって思っ 悪い点数のテストが返ってきた。どう 古賀 晴翔 (小学校六年生)

だって絶対に言わない。 きついた。僕はお母さんもお父さんも分 ぱい涙をためて話してくれた。僕も涙が かも知れないの。」お母さんは、目にいっ 出来る事を頑張る。もう自分のことバカ 問題なんてないよ。僕、もっともっと今 かるし、自分で何でも考えられる。 出てきたから、お母さんにギューって抱 遅かったら脳に何か問題が起こっていた 術をして入院してる写真なの。寝てる時 ていて、僕に一枚の写真を見せてくれた。 「これね、年中さんの時晴君がのどの手 に一分位息をしてなくてね。気付くのが ある日、お母さんが写真の片付けをし

こころの健康を!

ストレスやトラブルにぶつかって対処することが、新しいスタートしょう。それでもいろいろな力を借りながら努力し生きています。いことも、自分の嫌な面に気づいたり、自己嫌悪になるときもあるでます。苦しくて落ち込んだりすることもあります。思い通りにならなます。生には誰にでも転機があります。生きていれば楽しいこともあり

危機にひんすることもあります。につながることもあるでしょう。でも、思いがけず、こころの健康が、ストレスやトラブルにぶつかって対処することが、新しいスタートしょう。それてもしているだけを作りただら勢力し生きてします。

こころの健康を通して、だれもが安心して暮らせる社会にしましょう。

今すぐできる「こころのお手入れ」フケ条

1. 同僚や友人、家族に、素直な気持ちを話してみる。 お手入れを日常生活に取り入れてみましょう。 もくたびれたり休養が必要なときもあります。自分でできるこころのこころと体は別々のものではなく、体がくたびれるように、こころとなる。

2. 気持ちを自由に書き出してみるぎを得られることもあります。

されて、気持ちが落ち着いてきます。

雑談だけでもこころの安ら

ストレスを感じた出来事を、人に話すことで、自然に思考が整理

大切なのは、自分の素直な気持ちを外に出すことです。分の気持ちを紙に書き出すだけでも、気持ちが落ち着くものです。人に何もかも話すのはちょっと、と思うこともあるでしょう。自

3. 日常に「ご褒美タイム」をつくる

4、夜更かしせず、できるだけ同じ時間に起きる

). 規則正しい食事をする お手入れにつながります。

5. 規則正しい食事をする

朝に日光を浴びる

6

定させます。

うれしいね〉

とほめてたよ いつも素敵だね」 学校で先生が

> うほめられし れられんが て

フ.適度に体を動かす

ぬくもりまゆちゃん ② 作・画: miho/監修: m·h & y·m

にも導入されています。
るもの。適度な運動は、精神科治療体を動かすと、気持ちもすっきりす

一般社団法人日本精神科看護協会より」

うれしい! まあー

うれしいなぁ

るさ

たしたちの心をあたたかくはぐくんでくれます。がえのないものです。そのふるさと可児に伝わる「むかし話」は、わふるさとは私たちを生み、育てあげてくれた父や母のように、かけ

今回は今渡地区に伝わるお話しです。家族で語り合ってみませんか。

天地に分かれた龍神

住んでたんやと。てのいい此と雄の龍神がてのう。そのほら穴に、仲のいい雌と雄の龍神がむかしはその岸のへんは、岩がごつごつしておってこそ木曽川ライン下りで有名になってるけど、でこそ木曽川ライン下りで有名になっていじ、いまむかし、むかしのことでなも。この町は、いま

たんやと。

がのうなる。村はそのおかげで苦しい毎日になったかと。田や畑が荒れると、村の人は食べるもんできんような、草ばっかりの荒れ地にしてしまういあらしをおこしては、田んぼも畑も、なんにもいあらしをおこしては、田んぼも畑も、なんにもところがこの龍神は、村の人のことをちっともところがこの龍神は、村の人のことをちっとも

たのや。それでも和尚さん、いっしょうけんめいさま。村の人は、おそごうて地面に伏さってしまっと。そうすると、よう晴れてた空は、急にすみをぬっのならば。」と、三日三晩、いのりつづけんさったてやりたいものじゃ。わたしのいのりで救えるもておいでた江陽という和尚さんがこの村へもきて、ておいでた江陽という和尚さんがこの村へもきて、そんなある日、あちこちをおいのりしてまわっそのか。それである日、あちこちをおいのりしてまわったのや。それでも和尚さん、いっしょうけんめい

そうして、ようやっともらしもやんで青空がでの龍ほふかい淵に閉じこめられたんやと。ごい水柱があがっての。雄の龍が天にのぼり、雌いのりつづけると、とつぜん、岩が割れ、ものす

らいやったそうな。ういやったそうな。その石は、ちょうど小さい子が横になれるくのぞいて見ると、中に形のええ石が残っていてのてきたと。村の人が、おそるおそる岩の割れ目をてうして、ようやっとあらしもやんで青空がで

「値が上っつかつかられこう」「何やろ?こしかけやろか。」

龍神が眠るにはちいさいの。」龍がすわるかの?それにしてもええ形やわ。」

「その石は龍神の寝まくらですぞ。」村人がさわいでいると、和尚さんが、

つってあるそうや。
たんやと。龍のまくら石は、いまも本堂の西にまたんやと。龍のまくら石は、いまも本堂の西にまをかりて、さっそく建てての。龍洞寺と名をつけを建てたいと思っておられたので、村の人の助けを建てたいと思っておられたんやと。

(可児のむかし話「可児町民話の会」より)と、天と地にわけられた龍神はかなしいこちゃ。 こうして村も安心してくらせるようになったけ



[啓発のひかり]

★吹き去る風の中に暖かな春の息吹が感じられるな春の息吹が感じられるなりました。 ★年度末のあわただしい ★年度末のあわただしいかがでしょうか。 ◆季節を感じることの少ない現代だからこそ、身ない現代だからこそ、身ない現代だからこそ、りない なきを感じてください。